



今井敦市長が3日の会見で語った構想の核となる八ヶ岳連峰（茅野市の杖突峠から）

茅野市の今井敦市長は3日の定例会見の質疑の中で、八ヶ岳連峰を中心に麓の市町村が広域的に連携して観光振興などに取り組む「環八ヶ岳構想」が「今年度中に動き出す」と述べた。八ヶ岳西麓地域共生会議を構成する茅野市、富士見町、原村をはじめ、北佐久、南佐久両地域や山梨県北杜市を巻き込み、八ヶ岳山麓の魅力を共同で発信していく考え。今井市長は「いわば『環八ヶ岳同盟』みたいな枠組みだ」とした。

茅野市が八ヶ岳山麓の市町村とともに構成する組織体は、環境、観光、農業を切り口に3市町村が連携する八ヶ岳西麓地域共生会議のほかにも茅野市、佐久穂町、小海町で構成する国道299号整備促進期成同盟会があり、蓼科湖、白樺湖、女神湖の魅力を共同で発信するレクリゾート構想で北佐久郡立科町と組んでいる。上田市、佐久市

麓の市町村で「環八ヶ岳構想」

茅野市長「今年度中に動き出す」

との交流や文化庁から認定を受けた日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」で北杜市をはじめとする山梨県側の市とのネットワークもある。

3日の会見で今井市長は、各種テーマに基づく会議体を「点での交流」とした上で「点と点の交流を線で結んで八ヶ岳を中心に周囲をぐるりとつなげる『環八ヶ岳構想』を以前から関係市町村と話し合ってきたが、今年度いよいよ動き出すだろう」と述べた。

具体的な連携分野としてまず挙げたのは観光分野。そこを切り口に道路整備の促進や国や県への働き掛け、医療や福祉の相互補完体制など「さまざまな展開ができる」（今井市長）とした。「環八ヶ岳」をつなぐ道路、連携交流網の中心部を横断する国道299号（メルヘン街道）が重要になるとの認識を示した。

（野村知秀）